

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

329号

2018年7月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 「最後の冷戦」の終結を宣言 ～劇的な朝米関係の転換～

世界が注目した史上初の朝米首脳会談が6月12日、シンガポールで開催された。昨年まで一触即発の緊張関係にあった朝米両国の首脳が、笑顔で握手を交わし、過去の敵対的な関係を乗り越え、新たな関係構築を約束する共同声明が発表された。

朝鮮戦争休戦後も厳しい対立が続き、戦争の危機を何回も繰り返してきた朝米の首脳が、平和のために関係改善を約束したことは画期的な事だ。

東西冷戦は1989年の米ソ首脳によるマルタ会談によって終了した。シンガポール会談は「最後の冷戦」といわれた朝鮮半島の冷戦終結を宣言した会談として永く歴史に残るだろう。



▲共同声明に署名後、握手する朝米両首脳

### ■外交の基本は信頼関係

アメリカは北朝鮮に安全の保障を約束し、北朝鮮は朝鮮半島の完全な非核化を約束した。以降、新しい朝米関係の確立(国交正常化)と朝鮮半島の完全な非核化が同時並行的に進行していくことになる。北朝鮮は核施設を廃棄(爆破)し、アメリカは韓米合同軍事演習「フリーダムガーデン」の中止を発表した。6月中に北朝鮮が米兵の遺骨200体を返還し、東倉里のミサイルエンジン施設も破壊するという報道が流れると、アメリカは追加的に2つの軍事演習の無期限中止を発表した。9月には北朝鮮芸術団のワシントン公演も予定されている。行動対行動の原則が実践されている。スピードも速い。朝米間は相当深い論議をし、相互の信頼関係も深まっているものと推測される。

今回の首脳会談を冷笑したり、批判する人は「外交」の意味を理解できない人だ。外交とは「一方主義」ではなく「相互主義」であり、自国が何

かを得たいときは、当然相手国にも何かを与えなければならぬ。

トランプ大統領は帰国途中の未明にグアムに立ち寄り、出迎えた知事から「16万5千人の島民が安堵しています」と感謝の言葉を受けた。帰国後すぐに「北朝鮮による核の脅威はもはやなくなった。米国民は今夜から安心してぐっすり眠ってほしい」とツイートした。

COVID(完全で検証可能かつ不可逆的な非核化)は、強圧的で一方的な

「先核廃棄論」で、交渉にはなじまず、米国はすでに放棄している。日本の首相も日本国民に安心してぐっすり眠ってほしいと思うならば、制裁政策を撤回して、対話のための環境整備を急ぐべきである。

### ■2018年は統一元年

シンガポール会談後、金委員長は中国を訪問し、3度目の朝中首脳会談が開催されるなど、朝中両国の関係改善が加速化している。朝米首脳会談の翌日の韓国地方自治選挙では与党が圧勝し、保守が惨敗した。文大統領はロシアを訪問し、南北口で鉄道、エネルギー、電力の北東アジア経済共同体の実現を訴え、シベリア鉄道の釜山延長を力説し、計画の着手が決定した。

板門店宣言がシンガポール会談を成功させ、南・北・米の新しい3角関係が中国、ロシアの関係改善まで広げながら、朝鮮半島が平和の半島に猛スピードで生まれ変わろうとしている。まさに「統一は夢ではなく近づきつつある現実だ」。

2018年は統一元年として歴史に記憶されるだろう。(隆)

## 情勢の転換を活かし、団結した力で 朝鮮半島の平和を実現しよう 南北・朝米会談支持・歓迎6・24集会

4月の南北首脳会談に続き、6月12日にシンガポールで歴史上初めての朝米首脳会談が開かれる中、韓統連大阪本部主催で「南北・朝米首脳会談支持・歓迎！平和と統一のための6・24集会」が6月24日（日）、KCC会館（大阪市生野区）で開かれ、多くの会員・地域同胞・日本人が参加した。

集会では初めに、金隆司（キム・ユンサ）韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「4月の南北首脳会談、6月の朝米首脳会談の成功で時代は大きく変わった。私たちや私たちの運動を支援・連帯してくださる方々の地道な取り組みの成果だ」と述べながら、「もう時代は後戻りしない。これから一步一步着実に前進していこう」と語った。



▲6・24集会には多くの在日同胞・日本人が参加した

次に映像資料が上映された後、「南北・朝米首脳会談の歴史的意義と今後の展望」をテーマに、金昌五（キム・チャンオ）韓統連大阪本部副代表委員が情勢講演を行った。

金副代表は講演を通じて、南北首脳会談に至る経過を詳細に報告し「首脳会談で合意・発表された板門店宣言は、今後の南北関係を発展させる重要な宣言であり、南北関係は確実に前進する」と指摘した。

続いて、朝米首脳会談に関して金副代表は「朝米首脳会談開催の背景として、▲韓国でのキャンドル革命による親米・反北勢力の没落、▲朝鮮の火星15型の実戦配備による米国との力の均衡が実現したこと」と述べるとともに、朝米首脳会談の性格を「敵対関係の解消と関係正常化だ」と語った。

最後に、今後の展望について「8月の韓米合同軍事演習中止の発表、朝鮮戦争時の米兵の遺骨返還など朝米関係も順調に進む。日本だけが対朝鮮敵視政策に固執しており、在日同胞と日本の良心勢力が団結して、日本の反朝鮮敵視政策を転換させ、朝鮮半島および東アジアの平和を実現していこう」と主張した。

講演終了後は活発な質疑応答が行われ、最後に、姜明寿（カン・ミョンス）韓統連大阪本部副代表委員が閉会挨拶を行い集会は終了し、続いて同会場で懇親会が開かれた。

懇親会では、李鐵（イ・チュル）常任顧問が乾杯挨拶を行い、その後、歓談の時間がもたれ、各テーブルでは親睦と交流が深められた。

続いて、6月10日の第34回韓青大阪府本部定期大会で選出された、趙暎和（チョ・ヨンファ）韓青大阪府本部委員長をはじめ新執行部が紹介されるとともに、各民族団体代表、日本の労働組合・市民団体代表からスピーチが行われ「南北・朝米首脳会談の映像を見て、とても感動した」「朝鮮半島情勢は大きく変わった。日本の政権もこの変化を受け、政策転換が必要」「日朝・日韓連帯運動をより発展させよう」などと語られ、懇親会の最後に金隆司代表委員が閉会辞を述べ、懇親会は終了した。

## 趙暎和委員長をはじめ新執行部選出 韓青全国の先頭に立って運動を推進する 韓青大阪府本部第34期定期大会

「在日韓国青年同盟（韓青）大阪府本部第34期定期大会」が6月10日（日）、学働館（大阪市西区）で開催され、韓青大阪本部常任・盟員をはじめ韓青各地方本部、韓統連大阪本部のメンバーが参加した。

大会では初めに民衆儀礼が行われた後、李俊一（イ・チュル）韓青大阪府本部委員長代行が主催者挨拶を行い「2010年からの活動期間中、韓国内では保守政権が実権を握り、在日同胞青年にも暗い影を落とした。しかし、2016年から始まるキャンドル革命によって朴槿恵政権が打倒され、国家の主権が民衆にあることを再確認した」と述べ、「今日の定期大会を契機に、在日同胞青年が

先頭に立って祖国統一の実現に向けた新たな出発の場としよう」と語った。

次に、金承民(キム・スンミン)韓青中央本部委員長、金隆司韓統連大阪本部代表委員から激励辞が行われ、その後、議案審議が行われた。

議案審議では活動総括案(2010年4月～2018年6月)、決算報告、監査報告、活動方針案及び予算案が提案され、特に活動方針案では▲親しみやすさ、分かりやすさを重視した宣伝ビラ・冊子の作成に力をいれる。▲今年の8・15光復節行事への参加など、国内の民衆行事に積極参加する。▲各支部拠点を中心に定期的な宣伝活動を行い、地域同胞青年の参加を勝ち取るなどが提案され、満場一致で採択された。



▲定期大会には韓青全国の仲間が参加

続いて執行部が総辞職後、役員改選へと移り、韓青大阪府本部新委員長に趙暎和(チョ・ヨンファ)韓青生野北支部委員長、副委員長に高愛子(コ・エジヤ)韓青布施支部委員長、監査に宋詠好(ソン・ヨンホ)氏が選出された。

その後、3名から決意表明が行われた後、趙暎和新委員長が就任挨拶を通じ「キャンドル革命によって朴槿恵政権が倒され、今年に入り南北首脳会談と板門店宣言の発表、朝米首脳会談の開催など、祖国の情勢はとても速く動いており、委員長としての責任を強く感じる。一人でも多くの在日同胞青年を韓青に参加させられるよう頑張りたい」と語り、第34期定期大会は終了した。

大会終了後、同会場で各同胞青年団体代表、日本の連帯勢力が参加してレセプションが開催された。レセプションでは、参加者から李俊一前委員長代行に対する慰労、趙暎和新委員長に対する期待を込めたスピーチを中心に進行され、新たな門

出を祝った。

## 先輩・同志・後輩たちが集い、故人を偲ぶ 故金昌秀氏を偲ぶ会

昨年6月19日に早逝された金昌秀(キム・チャンス)前韓統連生野支部代表委員への思いを持ち寄り、「故金昌秀氏を偲ぶ会」が6月27日(水)に同支部事務所にて開かれた。偲ぶ会には、韓統連活動を通じて故人と様々な意志と生き様を交わし合った多くの同志、先輩、後輩たちが支部内外から集った。また当日、韓統連中央本部から贈られた大きな花が正面に飾られるとともに、故人を懐かしみ讃える手紙までが添えられ、参加者たちの故人への記憶と思いを一層引き立たせた。



▲偲ぶ会では、金昌秀支部代表の思い出などが語られた

会では、故人ととりわけ深く交流されてきた李鐵(イ・チョル)韓統連大阪本部常任顧問からのあいさつと献杯斉唱に続き、ほとんど全ての参加者から故人への思いが語られた。それらを通じて、故人の情熱的、非妥協的で頑固な反面、仲間たちへの思いやりもまたひそかに胸に湛えていた人柄が確認できた。

各人からの言葉の合間で、映像資料「金昌秀同志と共にすごす夕べ(医師からの余命宣告後の2014年1月26日に中央本部主催で開かれた集い)」が上映されたが、故人の伴侶であり、参加者の鈴木翠氏から「この映像をできれば自分にも分けてほしい」との申し出があった。その申し出から、鈴木氏が故人の人生の最後まで、どれほど大変な献身をされたか、そしてその記憶をどれほど貴重に思われているかをうかがい知ることができた。人々の思いのこもった良い集いであった。

# 板門店宣言を支持・履行し、統一運動の先鋒隊として頑張ります

## 韓青大阪府本部委員長 趙暎和 (チョ・ヨンファ)

6月10日、韓青大阪府本部第34回定期大会が開催され、趙暎和生野北支部委員長が韓青大阪府本部委員長に選出されました。今号の自主(チャジュ)では、趙暎和新委員長の抱負と高愛子本部副委員長、柳秀根韓青布施支部常任委員の決意表明を掲載します。

皆さん、アンニョンハシムニカ。

あらためましてご挨拶申し上げます。去る6月10日の第34期韓青大阪府本部定期大会で委員長に就任しました趙暎和です。

皆様のご協力を賜りまして定期大会が大成功の裡に終わり、正式に第34期執行部が出帆する運びとなりました。この場を借りて感謝申し上げます。



▲定期大会で就任挨拶を行う趙暎和委員長

およそ10年近くにわたる委員長代行体制の中、韓青大阪本部は中央本部直轄時期を経て、2年前には布施・生野北の2支部を立て直すなど、少しずつではありますが、再建に向けて一步一步今日まで歩んできました。その期間、民生の破綻、民主主義の後退、南北関係の悪化という三重苦を民衆に負わせた李明博政権、朴槿恵政権はキャンドル革命によって審判を受け、昨年5月に誕生した文在寅政権のもと、祖国を取り巻く情勢は大きく変化しています。

大会直後には、史上初となる朝米首脳会談も成功裏に行われました。日本の報道は相変わらず否定的な分析・論調を繰り返していますが、この流れは間違いなく、6・15共同宣言、10・4宣言をも超えた大きな潮流を生み出すことは間違いありません。

そのような中で私たち韓青大阪本部は▲「板門店宣言の支持・履行、▲国内・海外における同胞青年の交流事業拡大、▲活発な宣伝活動を通じた組織強化という3つの柱を立て、来たる統一新時代を大阪の地でけん引していく組織へと生まれ変わります。まだまだ至らない点多々お見せするかもしれませんが、諸先輩の方々におきましては、今後ともさらなるご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、これまで韓青大阪府本部委員長代行という立場ながら、韓青大阪本部の苦しい時代の只中にあっても、精力的に活動を牽引し、今回の定期大会まで責任を全うされた李俊一(イ・チュンイル)韓青中央副委員長に感謝申し上げます。



▲韓青全国の仲間と記念写真

また韓青中央をはじめ日々の活動を共に闘ってきた全国の韓青同志の皆様、この場を借りて感謝申し上げるとともに、これからも自主・民主・統一運動の先鋒隊としての役割を忠実に果たすことを誓います。



## 必ず朝鮮半島はひとつになります

韓青大阪府本部副委員長 高愛子(コ・エジャ)

先日、6月10日の第34回韓青大阪府本部定期大会で副委員長に就任しました。

2002年の春、高校1年生の頃に韓青に参加して、今年で16年目を迎えますが、とても不思議な感覚です。



▲高愛子副委員長

統一運動や歴史認識など、自分とは遠い問題だと思っていて、ただ楽しいから行っていた韓青の場でしたが、先輩方の活動を真剣にしている姿や、真っ直ぐに自分に向き合ってくれる姿勢、そして、人生をかけてこの韓青の運動をしている姿に感銘を受け、私も真剣に韓青と民族運動と向き合っていくように考えようになりました。

李明博政権や朴槿恵政権など、暗い絶望的な政権の時代を韓青で過ごしました。多くの同胞たちが犠牲になった悲しい事故もあり、一生忘れることはできません。

しかし、その悲しみと怒りをバネに、必ず時代は変わるという意味を持ち続け、同志と共に今日までやってこられました。

私たちは今まさに統一時代を生きています。必ず朝鮮半島はひとつになります。

この喜びを胸に大阪の同志、そして全国の同志、尊敬する先輩方とともに、もっと邁進できるように日々努力を重ねていきます。



多くの同胞青年を集め、守っていきます、

韓青布施支部常任委員 柳秀根(ユ・スグン)

韓青布施支部の柳秀根です。

小学3年生の時に、両親と一緒に韓統連の故国訪問事業で祖国に行ったのをきっかけに、自分の民族の歴史に興味を持ち始め、その中でも特に日本による植民地強占期の歴史や、解放後の民主化・統一運動の歴史が大好きでした。

自分が15歳の時に、オモニ(母)の紹介で韓青と出会いました。その頃から今大会で大阪を卒業される李俊一委員長代行をはじめ多くの先輩の方々から、たくさん愛情を受けたことを今でもすごく覚えています。



▲柳秀根常任委員

高校時代という何も知らない時期に、自分を育ててくれたのが韓青大阪本部と、ここにいらっしゃる連帯関係の皆様でした。

高校卒業後、韓青で活動するために社会に出ました。自分が韓青に来た当初から、祖国では李明博、朴槿恵政権が、祖国統一はもちろん民主主義や平和が弾圧され、その矛先は国の民衆や在日同胞にも向けられました。

その中でも韓青が先頭に立ち、国内の民衆と連帯し、キャンドル革命を通じて10年間に及ぶ保守政権を倒した歴史を振り返ると、自分がその韓青の一員であることにすごく誇りを感じます。

今、第2の6・15時代と呼ばれる中、今大会で組織された新執行部と方針を全面的に支持するとともに、自分は今後、韓青で活動しようと考えている在日同胞青年を集め、守っていける人間になりたいと考えています。

## ◆◆書籍紹介◆◆

## 権力と新聞の大問題

望月衣塑子・マーティン・ファクラー 著  
集英社新書／928円

この本の著者の一人。望月衣塑子さんは東京新聞社会部の記者で、菅官房長官が記者会見する際、鋭く、粘り強く質問し続け、「望月VS菅官房長官の仁義なき戦い」とまで言われた記者です。

大阪でも何度か講演をしていますが、残念ながら、直接話を聞いたことはありません。この本を通じて、安倍政権のメディア戦略の問題性について学びました。

第2次安倍政権が発足して以降、安倍首相は頻繁に各メディアの首脳と食事などをしたりして仲良くなったり、政権に有利な情報を流したり、いわゆるメディアコントロールがとても巧みで、また強化されていると指摘しています。具体的には安倍政権にとって好意的なメディアには、安倍首相の単独インタビューなど快く応じますが、批判的なメディア



には質問にも応じないといった態度をとっています。安倍政権にとって、どのメディアがお気に入り、どのメディアが嫌いか、皆さんお分かりだと思います。森友・加計問題をスクープした新聞社及び記者は、安倍首相からすると顔も見たくない相手です。

マーティン・ファクラーさんは、ニューヨーク・タイムス東京支局長を務めた方で、この本の中では、米国のメディア事情などを語っています。例えば「イラクに大量破壊兵器がある」と初めてスクープした記者の末路と、その反省に基づく各メディアの検証作業などについて紹介しています。

後半では、ネット社会の中での報道メディアの可能性について書かれています。ぜひ読んでください。(ソソ)

## ◆行事案内◆

## 日韓交流事業2018

朝鮮戦争停戦協定締結から65年 東アジアの平和に向けて  
停戦協定を平和協定にかえよう！

## 南北・米朝首脳会談を支持・歓迎し、日朝対話の再開を求める7・17集会

日 時：7月17日(火) 午後6時 受付/午後6時30分 開会

場 所：エルおおさか708号室(京阪・地下鉄“天満橋”駅下車徒歩7分)

内 容：情勢講演「南北・趙米首脳会談歴史的意義と今後の展望」

講 師：金昌五(ム・チャウ) 韓統連大阪本部副代表委員

報 告「8・15訪韓団」の取り組みについて

報告者：山元一英 日韓平和連帯共同代表

参加費：1000円

主 催：日韓平和連帯

問合せ：全日建連帯労組近畿地方本部 TEL：06-6583-5549

## 編集後記

久しぶりにお会いした先輩から「毎回、編集後記、読んでるよ」と言われました。うれしかったです。これからも頑張ります。(ソソ)

